



Virtual Management、リリース 12.2.1

目次

- 新規情報および変更情報 1
- 仮想インフラストラクチャ マネージャ 2
 - Cisco UCS B シリーズ ブレードサーバーのサポート 4
 - ルート IP アドレスの設定 4
- vCenter の可視化の追加 6
- 著作権 7

新規情報および変更情報

次の表は、この最新リリースまでの主な変更点の概要を示したものです。ただし、今リリースまでの変更点または、新機能の一部は表に記載されていません。

リリース バージョン	特長	説明
以前のリリースからの大きな変更はありません。		

仮想インフラストラクチャ マネージャ

UI パス : [仮想管理 (Virtual Management)] > [仮想インフラストラクチャ マネージャ (Virtual Infrastructure Manager)]



Cisco Nexus Dashboard ファブリックコントローラの仮想マシンのネットワーク可視化機能が有効になっていることを確認します。

次の表では、[仮想インフラストラクチャ マネージャ (Virtual Infrastructure Manager)] ウィンドウに表示されるフィールドについて説明します。

フィールド	説明
[サーバ (Server)]	サーバー IP アドレスを指定します。
管理対象 (Managed)	管理対象または管理対象外のクラスタのステータスを指定します。
ステータス	追加されたクラスタの状態を指定します。
ユーザー (User)	クラスタを作成したユーザーを指定します。
最終更新時刻	クラスタの最終更新時刻を指定します。



[更新 (Refresh)] アイコンをクリックして、仮想インフラストラクチャ マネージャ テーブルを更新します。

次の表では、[アクション (Actions)] メニューのドロップダウン リストで、[仮想インフラストラクチャ マネージャ (Virtual Infrastructure Manager)] に表示されるアクション項目について説明します。

アクション項目	説明
インスタンスの追加	[アクション (Actions)] ドロップダウンリストから [インスタンスの追加 (Add Instance)] を選択します。詳細については、「インスタンスの追加」を参照してください。  [ルート (Routes)] 上に同じ IP アドレスを ことを確認します。「ルート IP アドレスの構成」を参照してください。
インスタンスの編集	編集するインスタンスを選択します。[アクション (Actions)] ドロップダウンリストから [インスタンスの編集 (Edit Instance)] を選択します。必要な変更を行って、[保存 (Save)] をクリックします。[キャンセル (Cancel)] をクリックして、変更を破棄します。

アクション項目	説明
インスタンスの削除	削除する 1 つ以上の必要なインスタンスを選択します。 【アクション (Actions)】 ドロップダウンリストから、 【削除 (Delete)】 を選択します。 【確認 (Confirm)】 をクリックしてインスタンスを削除します。 【キャンセル (Cancel)】 をクリックしてこの削除を破棄します。
インスタンスの再検出	再検出する 1 つ以上の必要なインスタンスを選択します。 【アクション (Actions)】 ドロップダウンリストから、 【インスタンスの再検出 (Rediscover Instance(s))】 を選択します。確認メッセージが表示されます。

Cisco UCS B シリーズ ブレードサーバーのサポート

NDFC は、ファブリックインターコネクトの背後にある UCS タイプ B（シャーシ UCS）で実行されているホストをサポートします。この機能を使用するには、Cisco UCSM で vNIC の CDP を有効にする必要があります。



デフォルトでは、CDP は Cisco UCSM で無効になっています。

参考のために、VMM-A と VMM-B の 2 つの VMM について考えてみましょう。Cisco UCS UCS B シリーズ ブレードサーバーの検出後、トポロジに青色の VMM-A と VMM-B がファブリック インターコネクト ノードであることが表示されます。トポロジの例を下図に示します。

UCSM で CDP を有効にするには、次の手順を使用して新しいネットワーク制御ポリシーを作成する必要があります。

1. USCM で、**[LAN]** を選択し、ポリシーを展開します。
2. **[ネットワーク制御ポリシー (Network Control Policies)]** を右クリックして、新しいポリシーを作成します。
3. **[名前 (Name)]** フィールド、にポリシーの名前を **EnableCDP** と入力します。
4. CDP の有効なオプションを選択します。
5. **[OK]** をクリックしてポリシーを作成します。

新しいポリシーを ESX NIC に適用するには、次の手順を実行します。

- ・ 更新された vNIC テンプレートを使用している場合は、ESXi vNIC の各 vNIC テンプレートを選択し、**[ネットワーク制御ポリシー]** ドロップダウンリストから **EnableCDP** ポリシーを適用します。
- ・ vNIC テンプレートを使用していない場合は、更新されたサービス プロファイル テンプレートを使用します。各サービス プロファイル テンプレートに **EnableCDP** ポリシーを適用します。
- ・ 1 回限りのサービスプロファイルを使用している場合（つまり、各サーバーが独自のサービス プロファイルを使用している場合）、すべてのサービスプロファイルに移動し、すべての vNIC で **EnableCDP** ポリシーを有効にする必要があります。

Cisco UCSM の詳細については、[『Cisco UCSM ネットワーク管理ガイド』](#)を参照してください。

ルート IP アドレスの設定

IP アドレスを vCenter に追加する前に、Cisco Nexus ダッシュボードで同じ IP アドレスを設定する必要があります。

Cisco Nexus Dashboard でルートを構成するには、次の手順を実行します。

1. **[インフラストラクチャ (Infrastructure)]** > **[クラスタ構成 (Cluster Configuration)]** を選択します。
2. **[全般 (General)]** タブの **[ルート (Routes)]** カードで、**[編集 (Edit)]** アイコンをクリックします。

[ルート (Routes)] ウィンドウが表示されます。

3. IP アドレスを構成するには、**[管理 ネットワーク ルートの追加 (Add Management Network Routes)]** をクリックし、必要な IP アドレスを入力して、**[チェック (check)]** アイコンをクリックします。
4. **[保存 (Save)]** をクリックします。

ルート設定は、次の 2 つのシナリオによって管理されます。

- アプリケーションサーバーである vCenter の場合、通常は管理ネットワーク経由で到達可能です。
- vCenter によって管理される ESXi サーバーと、K8s インスタンスや OpenStack インスタンスをホストするベアメタルサーバーは、ファブリックネットワークに直接接続されます。したがって、それらはデータネットワークを介して到達可能です。

vCenter の可視化の追加

[仮想的な管理 (Virtual Management)] [仮想インフラストラクチャ マネージャ (Virtual Infrastructure Manager)] に表示される [アクション (Actions)] メニューのドロップダウンリストで、さまざまなアクションを実行できます。

1. [アクション (Actions)] > [インスタンスの追加 (Add Instance)] を選択します。

[インスタンスの追加 (Add Instance)] ウィンドウが表示されます。

2. [タイプの選択 (Select Type)] ドロップダウン リストから [vCenter] を選択します。

必要な IP アドレスまたはドメイン名とパスワードをそれぞれのフィールドに入力します。

3. [追加 (Add)] をクリックします。

追加された vCenter クラスタは、[仮想インフラストラクチャ マネージャ (Virtual Infrastructure Manager)] ウィンドウで表示できます。

4. インスタンスを編集するには、必要な vCenter を選択して、[アクション (Actions)] > [インスタンスの編集 (Edit Instance)] を選択して、変更の [保存 (Save)] をクリック します。

選択済みの vCenter クラスタのパスワードをアップデートし、ステータスを「管理対象」または「管理対象外」に変更できます。



管理対象外ステータスの vCenter クラスタの場合、ダッシュボードでトポロジと vCenter クラスタの詳細を表示できません。

5. 1 つ以上の vCenter クラスタを削除するには、必要な vCenter を選択し、[アクション (Actions)] > [インスタンスの削除 (Delete Instance(s))] を選択して、[変更の確認 (Confirm changes)] をクリック します。



クラスタを削除すると、すべてのデータが削除されます。クラスタは、トポロジ ビューからも削除されます。

6. 1 つ以上の vCenter クラスタを再検出するには、必要な vCenter を選択して、[アクション (Actions)] > [インスタンスの再検出 (Rediscover Instance(s))] を選択します。

確認メッセージが表示されます。

著作権

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任となります。

対象製品のソフトウェア ライセンスと限定保証は、製品に添付された『INFORMATION PACKET』に記載されており、この参照により本マニュアルに組み込まれるものとします。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または黙示のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

この製品のマニュアルセットは、偏向のない言語を使用するように配慮されています。このドキュメントセットでの偏向のない言語とは、年齢、障害、性別、人種的アイデンティティ、民族的アイデンティティ、性的指向、社会経済的地位、およびインターセクショナリティに基づく差別を意味しない言語として定義されています。製品ソフトウェアのユーザインターフェイスにハードコードされている言語、RFP のドキュメントに基づいて使用されている言語、または参照されているサードパーティ製品で使用されている言語によりドキュメントに例外が存在する場合があります。

Cisco および Cisco のロゴは、Cisco またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。商標または登録商標です。シスコの商標の一覧は、<http://www.cisco.com/go/trademarks> でご確認いただけます。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という言葉が使用されていても、シスコと他社の間にパートナー関係が存在することを意味するものではありません。(1110R)。

© 2017–2024 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.